

「希望郷いわて国体・いわて大会」の本大会開幕まで、約1年。年明け1月からは冬季大会がスタートします。今回は、岩手初の「完全国体」。復興のシンボルとして、オール岩手で取り組む大会局の今を紹介します。

岩手初の完全国体！
みんなが参加し、支えるために。



復興のシンボルといえるトライアスロン競技(釜石市会場)は、「希望郷いわて国体」から正式競技として開催。

幕開けは冬季大会から

平成7年の福島県以来21年ぶり、岩手では初となる「完全国体」の開催。すでに5月からリハーサル大会も行われており、本大会に向けた運営準備は詰め段階に入ってきました。まずは、平成28年1月27日に行われるスケート・アイスホッケー競技会の開始式(岩手県営武道館)を皮切りに、冬季大会が行われます。

「今大会スローガンである『広げよう感動。伝えよう感謝。』を共有しつつ、今年度第一の目標は、まず冬季大会を成功させること。第二は、本大会・全国障害者スポーツ大会を県民全体で成功させるべく運営準備を進めていくことと、大会に向けた県民運動を盛り上げていくことです」。



「地元企業からの積極的な協賛に感謝しています」と石木田さん。現在も広く協賛募集を継続中です。

そう話すのは、岩手県国体・障がい者スポーツ大会局総務課主幹兼企画広報担当課長の石木田浩美さんです。大会局では、平成25年度から「わんこダンス」の県内キャラバンをスタート。また、イメージソング「笑顔の賛歌」の普及など、県内全域で国体への気運向上に取り組んできました。地道な活動の継続によって、幼稚園や学校行事などで「わんこダンス」が披露される機会も増えてきたようです。

県政番組、PR紙「わんこ通信」、メールマガジンなど、今後はさらに国体広報ツールが増えていきますが、石木田さんは冬季国体や全国障害者スポーツ大会への関心を高めたいと話します。



子ども達を中心に、県内で「わんこダンス」も普及。

「岩手初の完全国体は、冬季大会からはじまります。夏にはリオデジャネイロオリンピックも開催され、秋の本大会へ続き、来年はまさにスポーツイヤー。3年後には釜石でラグビーワールドカップ、4年後の東京オリンピックと続いていくわけです。岩手から全国へ、そして世界へと、県民の皆さんも意識して関わってもらえるとうれしいですね」。

国体に参加するカタチ

こうした広報活動のもと、「県民一人ひとりが国体はどう参加するか」という活動の提案も進めています。その要旨について、大会局総務課県民運動担当課長の西野文香さんに教えていただきました。

提案の柱となる一つ目は、「おもてなしの心で歓迎しよう!」。花いっぱいなのまちで歓迎しましょう、きれいなまちで歓迎しましょう、あいさつや笑顔で交流しましょう。といった身近な生活での取り組みは、各事業所や団体で既に取り組んでいること



ボランティアへの参加方法など、「不明点は気軽に問い合わせしてほしい」と西野さん。



花いっぱい運動の苗を、リレー作業で運ぶ盛岡農業高校の生徒たち。

も多いはず。しかし、「お客様が増える国体に向けたさらなる意識づけによつて活動は広がり、その後にも結びつく活動になるのでは」と、西野さんは話します。おもてなしの心を皆でつなぐ「花のリレー事業」では、県内の高校や福祉作業所で育てた苗を保育園や学校などに配り、本番で沿道に飾って来訪者を迎える予定。国体をきっかけに世代を超えたつながりが生まれる、それもまた大会開催の意義なのかもしれません。

第2の柱は、「復興支援への感謝をしよう!」。東日本大震災時に全国からいただいた支援に対し、選手団を通して各県へ感謝の意を表します。地域や子ども達がつくった手づくりのノボリ旗で各都道府県の選手を応援。また、開閉会式では地元の子供たちが各県応援団を結成します。応援団結成は国体恒例の取り組みですが、通常は本大会のみ。今大会は、完

全国体の幕開けである冬季大会開始式でも応援団が熱い声援を送ります。

第3の柱は「国体に参加しよう!」。実際に選手として出場するのはごく一部の県民ですが、観覧に行く、運営ボランティアに加わる、募金支援するなど、参加のしかたはさまざまです。その中でも特にたくさんボランティアが必要であり、西野さんは協力を呼びかけます。

「運営ボランティアの仕事は、受付案内、会場整理、会場美化、弁当配布などのサービス等、運営の多方面にわたります。企業などで参加の場合には現時点での人数確約が難しい場合もあるのですが、まず参加表明していただくだけでも構いません。県民にとっても貴重な財産になる機会。企業として社員のボランティア参加を後押しくださると助かります」。

50年に一度の機会

昭和45年の国体開催から約半世紀。大幅に進化したIT環境を活かして、県では「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会130万人で参加宣言!」をウェブで募集しています。これは、「来店された方を笑顔で歓迎します」「サークル活動で競技を観戦して応援します」など、国体・大会に向けた意識や活動を事務所やグループごとに宣言してもらい、ホームページ上で思いを共有していく取り組み。ここで重要なのは、その活動規模ではなく「県民が楽しみに待つ



リハーサル大会会場に並ぶ、手づくりの応援ノボリ

ていると発信すること」。国体・大会開催に向け、多くの県民の意識が動きだすことを期待しています。約百万人の来場者が見込まれる国体・大会。事業者や住民一人ひとりがホスト側の立場に立つて盛り上げていきたいものです。国体・大会開催期間のはべ1ヵ月程度ですが、そこに向かう期間の活動、その活動によつて生まれる諸団体や地域のつながりは、岩手の未来を築く大きな力になります。また、50年に一度となる機会に、ボランティア、応援団、デモスポなど、家族みんなが国体・大会にさまざまなカタチで参加した記憶は、貴重な思い出になるでしょう。

大会局によれば、その大会運営の受け入れ体制を充実させるために、企業協賛や募金がまだまだ必要だといえます。各市町村の広報やチラシなどを通じて、今後は国体の紹介や募集記事も増えていきます。まずはその内容に関心を持ってもらうことが、小さなサポートへの一歩かもしれません。